

地域こども支援ネットワーク事業の詳細は
ホームページをご覧ください



トップページ

ホームページでは、大阪市内で実施されているこども食堂や学習支援などの「こども支援活動」を検索することができます。



大阪市内のこども支援活動MAP



こども支援活動や居場所の紹介

地域こども支援ネットワーク事業への登録については、下記までお問い合わせください。



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会／大阪市ボランティア・市民活動センター
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター 1階
Tel : 06-6765-4041 / Fax : 06-6765-5618
E-mail : kodomo@osaka-sishakyo.jp
URL : <https://www.osaka-sishakyo.jp/project/child-network/>

地域こども支援ネットワーク事業 協力をお願い

こどもを取り巻く状況は、社会生活の希薄化や家族形態の変化、貧困問題など、課題が山積しています。このような背景のもと、大阪市社会福祉協議会が中心となって、地域のこどもたちを社会で支える取組を実施するため、参画の輪を創りたいと考えています。こども食堂や学習支援に関する取組みや活動者のネットワーク化など、想いを形にするために、事業実施の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。



取組内容・主な使途

- (1) 活動団体の情報の発信及び情報共有を図るための場づくり
- (2) こども支援に関わる活動団体・活動者の育成や支援
- (3) こども支援活動の広報・啓発
- (4) 活動団体を支援する企業等との連携及び情報の発信
- (5) 活動団体への提供物資等の仲介及び調整 他

参画に係る協力金

個人	1口	2,000円
団体又は法人	1口	10,000円
※口数に制限はありません		

協力金の受付 大阪市社会福祉協議会 総務課06-6765-5601までお問い合わせください。申込み用紙をお送りします。

令和元(2019)年度

地域こども支援ネットワーク事業 報告書



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

目 次

概 要	2
背 景	2
大阪市社協が事業を実施する意義	3
ネットワーク事業 登録団体数	3
ネットワーク事業の主な取組み	4
1.活動団体への提供物資等の調整	
2.地域こども支援団体連絡会の開催（偶数月第3金曜日午前）	
3.地域こども支援ネットワーク事業運営協議会の開催	
4.こどもの居場所づくりサポート講座	
5.地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム	
6.「社会を生きる力」を育もう！夏キャンプの開催	
7.こどもの居場所づくりに関する実態調査	
8.活動者と応援者のネットワークづくり	
9.こども支援に関わる活動団体の不測の事故等に対する保険の実施	
10.啓発活動、情報発信	
資 料	17
資料1 これまでの物資提供一覧	
資料2 企業等の協力による体験一覧	
資料3 寄附・協力者一覧	
資料4 かわら版	

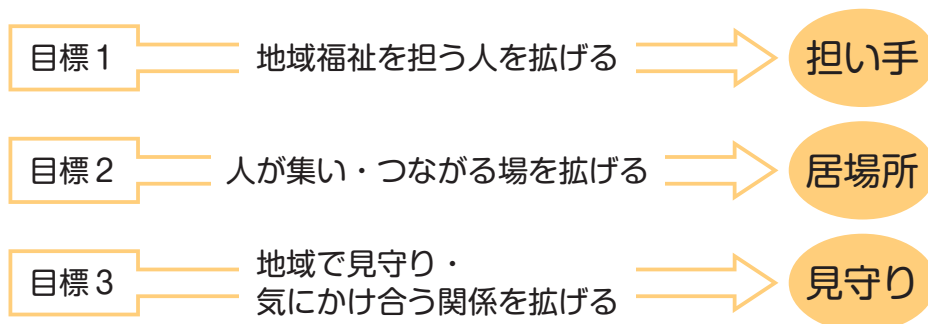


概要

地域こども支援ネットワーク事業 ～社会全体でこどもを支える仕組みづくりをめざして～

大阪市社会福祉協議会（以下、大阪市社協）では「つながり支え合うことができる福祉コミュニティ」を基本理念とし、地域福祉を推進するため「大阪市地域福祉活動推進計画」を策定しました。3つの重点目標のうちの一つに「人が集い・つながる場所を拡げる」（居場所）を掲げており、その一環として、平成30年度から「地域こども支援ネットワーク事業」を実施しています。地域こども支援ネットワーク事業は、とりわけこどもに関する課題を「他人事」ではなく、一人ひとりが「我が事」と捉え、地域住民と社協、地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、企業・団体等が一体となり、こどもの食の支援や学習支援をはじめ、こどもたちが身近に行くことができる居場所づくりなど、さまざまな取組みを推進し、地域でこどもを育む機運の醸成を図ることを目的としています。

●計画で掲げる重点目標



●「居場所」づくりの重要性

- ・継続的な社会関係をはぐくみ、支えが必要な人への、気づきと発見につながる
- ・地域で「何かしたい」という発意から、創意工夫をもって形にしやすい活動である
- ・具体的には、高齢者の介護予防・生きがいづくりの場、こどもの居場所など

背景

こどもを取り巻く課題において政府が平成21年に初めて相対的貧困率を公表したことにより見えない貧困層の存在が社会的に認知され、こどもの貧困問題がとりざたされるようになりました。

こどもを取り巻く状況は、経済的なことだけではなく、社会的な環境の変化が挙げられます。核家族、共働き、ひとり親世帯の増加や学校以外での集団生活、社会生活の希薄化など課題は山積しています。このような背景のもと、地域では、多様な形態でのこどもの居場所が増えつつあります。

大阪市社協が事業を実施する意義

大阪市社協の役割・機能

- 地域福祉を推進する団体
- 中間支援組織としての専門性
- 連絡調整機能、団体の組織化
- 調査、研究、啓発、広報機能
- 大阪市社会事業施設協議会の事務局（社会福祉施設約1,100施設加盟）
- 平成28年10月から、2カ月に一度、地域こども支援団体連絡会を開催
- 大阪市ボランティア活動振興基金によるこどもの居場所づくり活動への助成



①多様な団体・個人が実施するこども食堂の広がり

- ・ 対象となるこどもや、こども食堂の取り組み内容が多様
（こども食堂、学習支援、文化交流活動、個別支援、貧困支援型、地域共生型など）
- ・ 実施者・担い手の増加
（ボランティア、地縁団体、NPO、社会福祉施設、企業、ママ友グループなど）

②地域社会でこどもを育む機運づくりの必要性

- ・ 高齢者を中心とした活動からこどもに目を向けた活動へ
- ・ 「地域の子は、地域で育てる」⇒我が事としての意識
- ・ こどもの居場所づくりが、地域福祉活動として定着化する仕掛けが必要

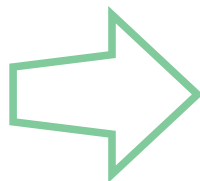
③社会福祉法人・施設による社会貢献活動の高まり

- ・ 改正社会福祉法による地域における公益的な取り組みの責務化
- ・ 社会福祉施設の資源（専門性、ハード面等）を地域社会に繋いでいくことが求められている

ネットワーク事業 登録団体数

平成30年度

88
団体



令和元年度

130
団体

令和2年3月31日現在

ネットワーク事業の主な取組み

社会全体で“こども”を支える仕組みづくりを行っています。

1. 活動団体への提供物資等の調整
2. 地域こども支援団体連絡会の開催（偶数月第3金曜日午前）
3. 地域こども支援ネットワーク事業運営協議会の開催
4. こどもの居場所づくりサポート講座
5. 地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム
6. 「社会を生きる力」を育もう！夏キャンプの開催
7. こどもの居場所づくりに関する実態調査
8. 活動者と応援者のネットワークづくり
9. こども支援に関わる活動団体の不測の事故等に対する保険の実施
10. 啓発活動、情報発信



1

活動団体への提供物資等の調整

地域こども支援ネットワーク事業では、本事業に登録する市内のこどもの居場所活動団体に向けて、市内5拠点(※)の社会福祉施設を介して、企業・団体等から提供のあった物資を提供しています。

令和元年度も、こども食堂をはじめとしたこどもの居場所と、利用するこどもたちの健やかな成長を応援したいと、お米やお菓子をはじめ、10社から延べ591団体に対して数多くの物資が提供されました。(P.17資料1 参照)

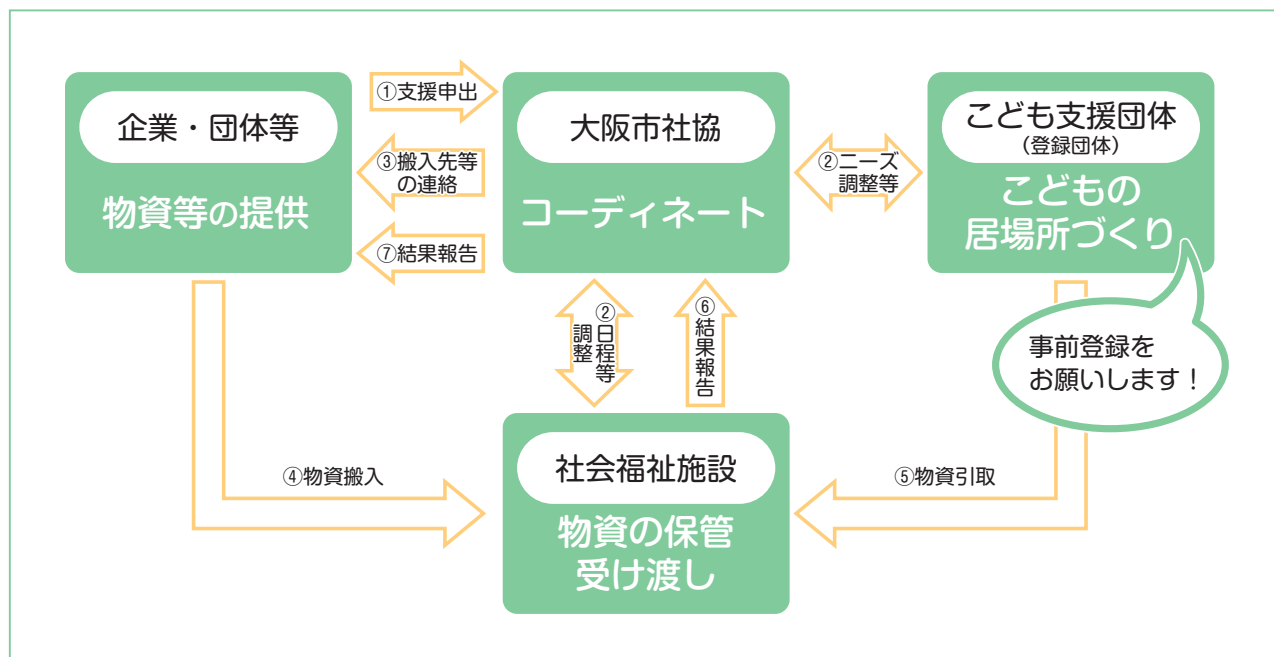


(※)市内5拠点の社会福祉施設

- 社会福祉法人博愛社（淀川区）
- 社会福祉法人四恩学園（天王寺区）
- 社会福祉法人聖家族の家（東住吉区）
- 社会福祉法人海の子学園入舟寮（港区）
- 社会福祉法人みおつくし福祉会母子生活支援施設
リアン東さくら（東成区）



【提供物資受け渡しの流れ】



企業・団体等からの参画・協力により提供された物資は、市内の5拠点の社会福祉施設に預けられます。そこからこども支援団体に直接手渡されます。



福祉施設の職員がこども支援団体に手渡し、児童福祉の専門家と、こども支援のボランティアが直接顔を合わす機会に！



また、物資提供を“つながり”のきっかけに、「こどもたちの文化的な体験・関わり」を増やしています。

企業・団体等の協力により、こどもたちへの体験活動も実施しました。(P.19資料2 参照)

団体からの声

(温泉施設招待へ参加)

日頃こども食堂で見る顔とまた違う顔を見れたり、知らなかった事を知ることができました。こどもたちはもちろんですが、印象的なのは保護者の方々がものすごく楽しんでいました。自分のこどもを他の人に見てもらって1人でスライダーへ行ったり、夫婦でスライダーへ行ったり…。それを見て、普段は出来ないんだろなぁと思いました。

私たちのこども食堂は、貧困のこどものためというより、こどもたちの居場所であり、保護者の育児負担軽減の役割があることを改めて感じました。

先日、保護者の方から「ウチの子は水苦手だったから行くの迷ったけど、みんなと一緒にやからなのか楽しんでたしスライダーも行ってました！本当に良かった！」とメッセージをいただきました。

この体験を通じて何かが変わった子がきつーと思います。本当に素晴らしい体験イベントをありがとうございました。



こどもたち
からの声

(温泉施設招待へ参加)

2

地域こども支援団体連絡会の開催

こども支援団体やそれを支援する企業・団体、区社会福祉協議会などが集まり、こども支援活動に関する勉強会や情報交換などを行いました。

毎回の内容は多様な団体から成る企画メンバーにより検討されています。

(開催日：偶数月第3金曜日午前10時～正午)



地域こども支援団体連絡会 令和元年度テーマ・内容

回 数	日 付	テーマ	講 師		参加人数
第15回	平成31年 4月19日(金)	ボランティア コーディネート	しま☆ルーム 平野みんな食堂ネットワーク 淡路こども食堂 にしよどこども食堂くるる 社会福祉法人大阪ボランティア協会	福井潤一郎さん 辻川さとみさん 蔭山 力雄さん 大西 裕子さん 永井 美佳さん	54団体80人
第16回	令和元年 6月21日(金)	こどもの心に寄り添う ～児童期を中心に～	臨床心理士・公認心理士	房村 利香さん	44団体53人
第17回	令和元年 8月7日(水)	こどもと楽しく 学び合う	NPO法人 Deep people	中尾 榛奈さん	25団体39人
第18回	令和元年 10月18日(金)	インターネットを 活用した広報活動	リタワークス株式会社 NPO事業部	荒木 雄大さん	31団体35人
第19回	令和元年 12月20日(金)	こどもの抱える課題と こどもの居場所づくり 活動の役割	サロン・ド・ソフレ	竹内 宏一さん	41団体49人
第20回	令和2年 2月21日(金)	若者支援現場から見 る、こどもの居場所 づくりの重要性	大阪市若者自立支援事業「コネクションズおおさか」 中町 康弘さん		39団体52人

3 地域こども支援ネットワーク事業運営協議会の開催

こどもを取り巻く環境から、必要な支援を事業運営に反映するため、大阪市社協だけではなく、こどもに関わる多様な団体等から参画をいただき、年2回協議を行いました。



回 数	日 付	テーマ	参加人数
第1回	令和元年10月7日(月)	事業の進捗状況について こどもの居場所アンケート経過報告	11人
第2回	令和2年2月25日(火)	事業の進捗状況について 次年度の事業計画(案)について	9人

4 こどもの居場所づくりサポート講座



ボランティアや活動団体スタッフなどを対象に、支援に必要な知識について学ぶ講座を開催しました。

回数	日付	テーマ	講師	参加人数
第1回	令和元年 7月17日(水)	①こども食堂等における衛生管理について ②こどもの発達障がいについて 特性や周囲のサポートの方法など	①大阪市健康局 食品衛生監視員 櫻野 雅弥さん ②ハッピーテラス放課後等デイサービス 児童発達支援管理責任者 前田 事成さん	33団体36人
第2回	令和元年 9月25日(水)	①こども食堂等における衛生管理について ②活動資金の確保について ～クラウドファンディングの仕組みを知ろう！～	①大阪市健康局 食品衛生監視員 森 秀哉さん ②ならファンドレイジングラボ 西村 昌弘さん	26団体29人

5 地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム



地域共生社会の実現をめざし、大阪市社協が取り組む大阪市地域福祉活動推進計画の重点目標のひとつである「地域の居場所」の意義を共有し、大阪府下全体で、こども食堂や“だれもが集える居場所”の充実、また住民に身近な圏域でのネットワークづくりの意義を共に考え、再度、理解を深めることを目的として令和2年1月19日に「地域こども支援ネットワーク

事業シンポジウム～こども食堂からみんなの居場所へ～」を開催し、253人の参加がありました。

参加者からは、「こども食堂とSDGsの精神に通じるものがあることに気づくことができた」「一方通行じゃない支援が大事なんだとわかりました」などたくさんの感想がありました。こどもの貧困対

策として捉えられがちなこども食堂ですが、地域の交流拠点として、誰もが安心して暮らせる社会の実現につながるということを、会場全体で共有する機会となりました。

プログラム	内 容	登壇者
映画上映	「こどもしょくどう～こども食堂が必要とされる現代社会をこどもの視点から描いた物語～」	
基調講演	「全国こども食堂箇所数調査から」 世代間交流拠点としてのこども食堂について	社会活動家 東京大学先端科学技術研究センター特任教授 全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長 湯浅 誠さん
活動報告	「地域(みんな)で子育て・子育て支援」 ～誰もが孤立しないつながりづくり、 にしなり☆こども食堂の取り組みから～	特定非営利活動法人西成チャイルド・ケア・センター 代表理事 こども食堂ネットワーク関西 代表 川辺 康子さん
鼎 談	あらためてこどもの居場所の 意義を問う	社会活動家 東京大学先端科学技術研究センター特任教授 全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長 湯浅 誠さん 特定非営利活動法人西成チャイルド・ケア・センター 代表理事 こども食堂ネットワーク関西 代表 川辺 康子さん 同志社大学 社会学部 教授 大阪市ボランティア・市民活動センター 所長 上野谷加代子

地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム

こども食堂から みんなの居場所へ

～だれもが安心して暮らせる大阪をめざして～

地域共生社会の実現をめざし、大阪府下全体で、こども食堂や“だれもが集える居場所”の充実、また住民に身近な圏域でのネットワークづくりの意義を考え議論を深めます。

参加費無料 定員 600人(要予約)

令和2年
1月19日(日) 13:00～16:30

会場 阿倍野区民センター大ホール
大阪市阿倍野区阿倍野4丁目 19-118
大阪メトロ御堂筋線「阿倍野」駅5分出口から西へ50m

対象 こども食堂に関心のある方、活動者、地域団体(民生委員・児童委員、主任児童委員、青少年委員、PTA、学友会等)、福祉施設(こども、高齢、障がい等)、企業等

申込方法 令和2年1月10日(金)までに、電話・FAX・Eメール・申込フォームでも申込ください！

プログラム

■13:00～ 第一部
・“こどもしょくどう”映画上映(93分)
～こども食堂が必要とされる現代社会をこどもの視点から描いた物語～

■15:00～ 第二部
・講演 社会活動家・東京大学 特任教授 湯浅 誠氏
・活動報告 西成チャイルド・ケア・センター 代表 川辺 康子氏
・鼎 談 テーマ「こどもの居場所活動の未来について」
湯浅 誠氏、川辺 康子氏、
上野谷加代子(大阪市ボランティア・市民活動センター所長)

■16:30 終了

申込み・お問合せ先
大阪市ボランティア・市民活動センター
TEL.06-6765-4041
FAX.06-6765-5618
E-mail: kodomo@osaka-shihakyo.jp
[地域こども支援ネットワーク事業] [検索]

※参加申込書は用意にあります。

1月18日(土) 14:00～17:00(要予約)
同志社大学・堺市・堺市社会福祉協議会
～堺市と同志社大学との地域連携事業～
「さがい読！ひろがる子ども食堂の輪」
堺市市民活動協議会(堺市・堺市市民活動センター)主催

主催 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア・市民活動センター
協力 社会福祉法人 堺市社会福祉協議会
社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会



6 「社会を生きる力」を育もう！夏キャンプの開催

8月18日から19日までの2日間、夏キャンプを開催しました。自然体験や生活体験ができる「豊中市立青少年自然の家わっぱる」で、自然の中で火をおこしたり、土や木のぬくもりを感じたり、昆虫など間近に触れ合ったり五感を使った自然体験を通して、社会性や創造性、決断力などを養いました。



参加者

計66人



- ・ 大阪市内のこども食堂やこどもの居場所活動等に参加する小学1年生から6年生 37人
- ・ 大学生を中心としたボランティア 29人

大学生ボランティアの活動レポート

夏キャンプは、大阪市内の大学に通い、福祉や教育などを学ぶ学生22人がボランティアとして参加しました。7グループに分かれ、リーダー、副リーダー、フリースタッフとして役割分担して、ゲームやレクリエーションを考え、歌ったり、笑ったり、こどもたちに寄り添いながら2日間を過ごしました。

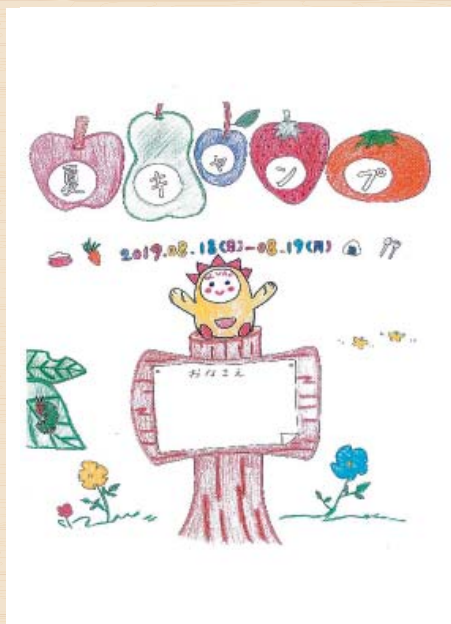


キャンプのボランティア経験がなく、当日しっかり役割をこなせるか自信がなかったけど、活動をしていく中で、その楽しさやこどもたちのワクワクした様子で自信のなさは頭から抜けていきました。カレー作りなどみんなの協力が必要な場面で自分の役割への責任感が見えました。

キャンプネーム 酒井（1回生）

リーダーとしてグループを引っ張っていきけるか不安でしたが、こどもたちはそんな心配はよそに自主的に行動して、こどもたちに助けてもらう場面も多々ありました。キャンプに参加するのは、初めてでしたがとても楽しい思い出になりました。

キャンプネーム みいちゃん



ボランティアが手書きしたイラスト入りのしおり

私は今まで、リーダーとしての役割をする経験がなかったため、事前に頭の中でイメージを描いたリーダーにならないといけなと思い込んでいました。でもそれは間違いで、自然体でいることが1番大切だと感じました。自然体でいればこどもたちと打ち解けることができるし、自分自身も楽しんで取り組みます。このキャンプを通して、どのようにこどもたちと接したらいいのかを学びました。

キャンプネーム みんな（2回生）

今回のキャンプでは、こどもたちの成長をより感じる事ができました。私自身何度かキャンプに参加している中で、初回のキャンプに来ていたこどもたちが、今回のキャンプも参加していました。当時甘えたで年上の子にお世話をしてもらっていた子が、今回は自分より年下のこどもの面倒を見てグループを引っ張っている姿を見て「大きくなったなあ」とこどもたちの成長に感動しました。私自身、保育士を目指していて、集団に対する声かけや一人ひとりのこどもに対しての配慮は大切にと考えていますが、他のリーダーがうまくこどもたちに声かけしている姿を見て、まだまだ自分には足りないことがあると勉強になりました。これからこどもたちにたくさん関わり、成長していきたいと思います。

キャンプネーム らび（4回生）

様々な活動と一緒にいることでこどもたちが活発になっていったように感じました。初めてお米を研いだという子がいて、自炊の経験がこれから役に立つだろうと思いました。

キャンプネーム いばっち

グループ内の女の子があまり話さず一人になることもあり、どうすればいいのかわかりませんでした。でも同じグループのこどもたちが話しかけるうちに、その子も一緒に楽しむことができました。晩ご飯のカレー作りの時には、役割分担して、効率よくカレーを作れたと思います。最初はふざけて、なかなか言うことを聞いてくれませんでしたが、段々とメリハリがついてきたこどもたちを見て短い間でしたが成長を感じました。

キャンプネーム うめちゃ

ふだんとは全く違う環境で、普段関わることのない人たちと活動したことは、大変いい刺激になりました。何かを実際に企画する立場に立って、それに要する労力を知りました。難しかったけど楽しかったです。キャンプに参加する中で、協調性や行動力を確実に身につけていくことを実感できました。

キャンプネーム あつ（4回生）



7

こどもの居場所づくりに関する実態調査

こどもの居場所アンケート調査

地域こども支援ネットワーク事業登録団体及び各区社会福祉協議会が把握している活動団体を対象に、活動を通じて感じる課題などを把握することを目的に、アンケート調査、インタビュー調査を実施し、報告書にまとめました。

(1) アンケート調査

- 調査対象：大阪市内で「こどもの居場所活動」に取り組んでいる団体
- 調査期間：令和元年8月6日～令和元年10月30日
- 調査方法：郵送による配付回収
- 回収状況（配布数）：159件（【内訳】登録団体：112団体、未登録団体：47団体）
- 有効回収数：102件（有効回答率：64.2%）
- アンケート調査票：農林水産省が平成29年に実施した「子供食堂向けアンケート調査」の調査項目を参考に作成

(2) 活動責任者へのインタビュー調査

- 調査対象：大阪市内で「こどもの居場所活動」に取り組んでいる29団体の責任者
- 調査期間：令和元年9月17日～令和元年10月30日
- 調査方法：構造化したインタビュー調査票を用いた個別および集合による聞き取り

(3) こどもへのインタビュー調査

- 調査対象：こどもの居場所に参加したこども70人
- 調査期間：令和元年9月17日～令和元年10月30日
- 調査方法：構造化したインタビュー調査票を用いた訪問による聞き取り

新型コロナウイルス感染症に伴う こどもの居場所活動状況に関するアンケート調査

新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、こどもの居場所活動についても中止・延期等の対応に懸念する声があり、地域こども支援ネットワーク事業登録団体を対象に、今後のこどもの居場所活動の実施状況や対応について、登録団体間における情報共有を目的にアンケートを実施しました。

- 調査対象：地域こども支援ネットワーク事業に登録する124団体（令和2年3月時点）
- 調査期間：令和2年3月2日（月）～令和2年3月6日（金）
- 調査方法：メール、FAXによりアンケート用紙を配付
- 有効回収数：69団体（有効回答率 55.6%）

8

活動者と応援者のネットワークづくり

こども支援に関わる企業交流会の開催

地域こども支援ネットワーク事業登録団体と、社会貢献を考える企業がそれぞれの取組みを紹介し、協働のきっかけとしていくことを目的に、第2回企業交流会を令和元年6月11日に開催しました。

当日は活動団体16人、企業24人の計40人が参加し、事例報告やグループディスカッションを行いました。ディスカッションでは、他業種の取組みや気づかなかった課題がわかり、有意義な交流会となりました。



参加した企業の声（交流会アンケートより抜粋）

さまざまな活動を、熱い思いでされている皆さんの話が響いた。

寄附などで役に立てればと思います。

企業として継続してどのようなことができるか勉強していきます。

企業とこども食堂の運営者とで何かできるのか、何をしてほしいのかが意見交換できて良かった。

これから行おうと計画していることなどお聞きしながら、マッチングできそうな団体と連絡先を交換できた。



企業の社会貢献活動の支援

アサヒ飲料株式会社と社会福祉法人みおつくし福祉会母子生活支援施設リアン東さくらの協力により、対象の自動販売機で商品を購入すると、売り上げの一部が地域こども支援ネットワーク事業に寄付される取組みが始まりました。寄付金は、積み立てられ、多様な団体がこども食堂等のこどもの居場所活動の応援資金として活用される予定です。

9 こども支援に関わる活動団体の不測の事故等に対する保険の実施

保険名称：「こどもの居場所あんしん保険」

補償期間：平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

対象団体：地域こども支援ネットワーク事業登録団体のうち132団体

※1団体が複数の場所で活動しているため登録団体数と対象団体数が異なる

事故報告件数：0件

10 啓発活動、情報発信

ホームページによる情報発信

こども支援活動に関する研修会や啓発イベント、連絡会の報告、助成金情報などを専用ページにて積極的に情報を発信しました。



「広げよう！こどもの居場所ガイドブック」の発行



こどもの居場所を新たに開設したい方、すでに居場所を運営している方など、活動へのヒントやきっかけとなるガイドブックを作成しました。



啓発ノートの作成

本事業をこどもや保護者等に広く周知することにより、地域で活動しているこども食堂や学習支援等のこどもの居場所活動への参加をうながすとともに、企業や団体による支援の輪をよりいっそう広げることを目的にノートを作成し配布しました。



資料

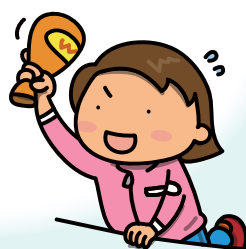
資料1 これまでの物資提供一覧

提供企業名	品 名	提供先 団体数	数 量	引き渡し 期間	拠点となる 社会福祉施設
一般社団法人全国 食支援活動協力会	オールブラン プレミアム	7	24箱 (6袋入)	4月12日 ～4月25日	四恩学園
西明寺	洋菓子	1	4箱	5月10日	入舟寮
セレッソ大阪	洋菓子	11	232箱	7月3日	聖家族の家
東京海上日動火災 保険株式会社	乾パン	9	104缶 (64食入)	7月1日 ～7月5日	—
高島屋	ビスコ	51	480箱 (10缶入)	8月20日 ～8月24日	—
	スーパー保存水 500ml		317箱 (24本入)		
大阪府生活協同 組合連合会	おからパウダー	30	118箱 (10個袋入)	10月28日 ～11月11日	四恩学園 聖家族の家 リアン東さくら 入舟寮 博愛社
日本もったいない 食品センター	スパゲッティ 乾麺	36	32箱 (5kg×3袋入)	—	—
	備蓄食セット	27	218箱 (6缶入)	—	—
	レトルト中華丼	29	63箱 (60袋入)	—	—
十川鞆株式会社	ランドセル	1	4個	—	—
リバー産業 株式会社 (大阪市へ寄贈があ り、大阪市社協に て調整)	除菌 ウェットシート	70	259個	5月27日 ～6月14日	四恩学園 聖家族の家 リアン東さくら 入舟寮 博愛社
	液体 ハンドソープ		218個	5月27日 ～6月14日	
	ペーパータオル		381個	5月27日 ～6月14日	
	手指消毒液		178個	5月27日 ～6月14日	

提供企業名	品 名	提供先 団体数	数 量	引き渡し 期間	拠点となる 社会福祉施設
リバー産業 株式会社 (大阪市へ寄贈があ り、大阪市社協に て調整)	除菌 ウェットシート	61	217本	7月25日 ～8月19日	四恩学園 聖家族の家 リアン東さくら 入舟寮 博愛社
	液体 ハンドソープ		173本	7月25日 ～8月19日	
	ペーパータオル		307個	7月25日 ～8月19日	
	手指消毒液		146本	7月25日 ～8月19日	
	除菌 ウェットシート	79	344個	10月28日 ～11月11日	
	液体 ハンドソープ		274個	10月28日 ～11月11日	
	ペーパータオル		490個	10月28日 ～11月11日	
	手指消毒液		237個	10月28日 ～11月11日	
	除菌 ウェットシート	70	277個	1月27日 ～3月5日	
	液体 ハンドソープ		214個	1月27日 ～3月5日	
	ペーパータオル		376個	1月27日 ～3月5日	
	手指消毒液		190本	1月27日 ～3月5日	
	精米	62	357袋	2月26日 ～3月27日	
株式会社 セブン-イレブン ・ジャパン	食品等 詰め合わせ	47	47	随 時	—
公益社団法人 全国環境対策機構	臨時休校対応に かかるこども食 堂等への弁当の 提供	10		*周知のみ	—
日本もったいない 食品センター	クリスマス用 お菓子	4	4 式	12月13日 ～12月20日	四恩学園 リアン東さくら 入舟寮 博愛社

資料2 企業等の協力による体験一覧

協力企業名	体験名称	開催日	参加人数
積水ハウス株式会社	暗闇のソーシャル・エンターテインメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」への招待	8月23日	1団体6人参加
株式会社阪神住建 (スパワールド)	温泉施設招待	9月7日	12人 (うち、こども8人)
		9月28日	41人 (うち、こども28人)
		9月29日	32人 (うち、こども21人)
		10月5日	2団体87人 (うち、こども62人)
ECCアーティスト 美容専門学校	スマイルウェディングフォト (なんらかの事情で結婚式を挙げていない家庭を対象とした結婚写真撮影サービス) 招待	11月2日	3団体4組
明治安田生命保険 相互会社	J1リーグ観戦チケット提供	11月9日	2団体17人
		11月30日	1団体4人



資料3 寄附・協力者一覧（順不同・敬称略）

社会福祉施設・企業

大阪硝子株式会社

社会福祉法人 育徳園

アサヒ飲料株式会社

長吉六反保育園

社会福祉法人 日本コイノニア福祉会
大宮まぶね保育園

社会福祉法人 大阪愛保会

瓜破西地域在宅サービスステーション
てんそう苑

新生保育園

ヒーローズ旭保育園

社会福祉法人 島屋福祉会 島屋保育所

茨田大宮保育所

井高野デイサービスセンター

社会福祉法人 治栄会 とどまつ園

SURGE株式会社

社会福祉法人 スワンなにわ

かぐはし保育園

社会福祉法人 四恩学園

社会福祉法人 愛和福祉会 平野愛和学園

社会福祉法人 白寿会

株式会社村上佛壇

内代まつのはな保育園

東淀川区民生委員児童委員協議会

社会福祉法人 しんもり福祉会

公益社団法人 全国環境対策機構

社会福祉法人 高津学園

幼保連携型認定こども園 第二和光園

社会福祉法人 大阪福祉事業財団
くるみ乳児院

大宮まなぶ保育園

社会福祉法人 亀望会

山王地域在宅サービスステーション
みどり苑

やまと保育園 こどもの家

社会福祉法人 あさか会

リアン東さくら

レイモンドみてじま保育園

いわき生野学園

江之子島コスモス苑

社会福祉法人 春栄会

社会福祉法人 大阪自彊館

社会福祉法人 よさみ野福祉会

愛のめぐみ保育園

社会福祉法人 太陽社会福祉事業協会
救護施設ジョイガーデン

社会福祉法人 千歩会

社会福祉法人 旭長寿の森

社会福祉法人 寿楽福祉会
特別養護老人ホーム 寿楽荘いたかの

社会福祉法人 なみはや福祉会
新東三国保育園

社会福祉法人 燦燦会 小市学園

その他の団体・個人

笹倉 和忠

中村 清久

花岡 健夫

吉村 寛子

静永 弘徳

河染 徹子

渡島 清美

服部 多嘉男

青野 清美

坂口 雅彦

高木 隆介

中村 孝子

山井 修治

善意銀行指定預託

41会 スマイルチルドレン

公益社団法人 全日本不動産協会
大阪府本部 中央支部

助成金

社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団

資料4 かわら版

地域子ども支援ネットワーク事業の取組みを発信するため発行しました。

社会全体で子どもを支える仕組みづくり ～地域子ども支援ネットワーク事業～

かわら版

第5号

「社会を生きる力」を育もう！夏キャンプを開催！

8月18日（日）から19日（月）まで1泊2日、市内のこどもの居場所に参加することと、大学生ボランティア、職員合わせ合計66人が「豊中市立青少年自然の家わっぱる」へ行きました。こどもたちが日常から離れ、初めて出会う人や自然と触れ合うことで、普段体験することのできない経験を通して、感動する心や共に生きる心を育み、また、こどもたちに関わるボランティアの育成を目的に夏キャンプを開催しました。

外で笑いっぱなしで遊びました

<1日目>
外遊びや、ネイチャーアーツを通して自然を感じました。カレー作りでは、包丁で野菜を切り、薪から火をおこし、初めての体験に「やってみよう」とチャレンジ。夜には、火を囲み、大きな声で歌ったり、踊ったり、キャンプファイヤーを楽しみました。

<2日目>
7時には起床して、自分でシーツを畳み、みんなで助け合い部屋の掃除をしました。朝食後は、大縄や空き缶つみ、ストラックアウトなどのゲームを楽しみ、最後は、焼き板の表面をたわしで磨いてから、絵を描き、思い出クラフトを作りました。こどもからは、「初めての体験ができて楽しかった」、「新しい友達ができ」と声がありました。

ボランティアと一緒に初めて包丁を使いました

火おこしにチャレンジ中

学生ボランティアは、こどもたちに楽しんでもらうためにプログラムを考え、ゲームの進行等を行いました。イレギュラーな事態が起きた時には、戸惑いながらも、先輩や職員へ相談し、協力して危機対応に、みんなでキャンプを楽しむ姿がありました。ボランティアを通して、こどもに頼られることが自信につながり、学生ボランティアも成長することができました。

学生ボランティアがこどもに寄り添ってくれました

第5号

企業とこども食堂の協働「第2回企業交流会」を開催



6月11日（火）、「子ども支援に関わる企業交流会」を大阪府教育会館たかつガーデンで開催しました。こどもの居場所を運営する団体が16人、企業から17社24人の合計40人が参加しました。今回で2回目となる交流会は、大阪市内のこども食堂やこどもの居場所づくりをテーマに、こども支援活動団体が日々の活動の中で求めていること、企業が考えることを考える機会となりました。

グループワークでは、食料費やボランティア不足といった課題に対してどのような支援があれば継続した活動が可能になるかを話し合いました。企業は社員献活動の取組みとして、食品や食材等の物資や助成金の寄付だけでなく、社員のボランティアや職業体験等こどもたちに多様な体験、学習の提供をしたいと話し、前向きな意見交換が行われました。

桃山学院大学名譽教授の石田司可さんは「企業がもっているもの、または社員がもっているもの、できることで協力してもらえと嬉しい。こどもの居場所を運営する熱い思い、企業の社会貢献への熱い思いを話し合う場が大切である」と話しました。



企業等からの物資の提供いただいています

大阪市危機管理室
リバー産業株式会社
全国食支援活動協力会
西明寺

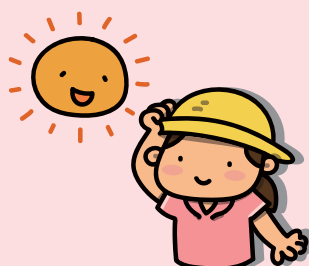
セレスソ大阪
福島工業株式会社
高島屋大阪店
日本もったいない食品センター



地域子ども支援ネットワーク事業は、市内の社会福祉施設を中心に、多くの方の協力金により事業を実施しています。協力団体一覧はホームページをご覧ください。

問い合わせ 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア・市民活動センター（阪井・倉田・石丸）
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10
TEL: 06-6765-4041 / FAX: 06-6765-5618 / Mail: kodomo@osaka-seihakyo.jp
＜利用時間＞ 月・水・金 9:30～20:30 / 火・木・土 9:30～17:00 （日曜・祝日及び年末年始休館）

このかわら版は、共同募金により作成しています



社会全体でこどもを支える仕組みづくり ～地域こども支援ネットワーク事業～

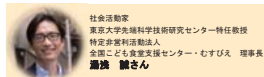
かわら版

第6号
2020年2月

こども食堂からみんなの居場所へ

地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム開催！

令和2年1月19日、地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム「こども食堂からみんなの居場所へ」を阿倍野区民センターで開催し、253人の参加がありました。



基調講演家
東京大学先端科学技術研究センター特任教授
特定非営利活動法人
全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長
轟 誠さん



こどもの居場所活動、活動の支援者、行政職員、
学校職員等多数の人が集まりました

基調講演で轟誠さんは、「こども食堂の運営スタイルは開催頻度や参加者の年齢など活動によって異なりますが、大きく分けて『こどもの貧困対策』と『地域交流の促進』という2本柱で活動されています。

課題を抱えたこどもを対象にしたクローズな活動もありますが、高齢者や誰もが参加できる活動も増えてきていて、こどもを中心とした『みんなの居場所』となりつつあります。

こども食堂は自発性と多様性が生命線です。多様な運営の形態を受け止めていただき、ボランティアをする、寄付をするなど、ぜひ自分に合ったかたちで応援してください。高齢者もこどもも、地域全体が元気になることを期待しています」と話しました。

参加者からは「こども食堂とSDGsの精神に通じるものがあることに気付くことができた」「こども食堂に食べに行くことは、こどもの分のご飯が減るのではなく、食事を支えることが応援になるのだと知った」という感想をいただきました。

こどもの貧困対策として捉えられながらもこども食堂ですが、地域の交流拠点として、こどもだけでなく高齢者や誰もが参加できる『みんなの居場所』としての存在意義が広まっていくことで、誰もが安心して暮らせる社会の実現につながるというこども、会場全体で共有する機会となりました。



地域こども支援ネットワーク事業の
取組みがパネルで紹介しました

第6号

第19回地域こども支援団体連絡会を開催



令和元年12月20日（金）、大阪府教育会館たかつガーデン地下1階オリーブにて第19回地域こども支援団体連絡会を開催しました。講師にサロン・ド・ソワレの竹内 宏一さんを迎え、「こどもの抱える課題とこどもの居場所づくり活動の役割」をテーマにお話いただきました。

参加者から、「こども食堂が地域のネットワークの場になれば良いと言っていたうれしかった。自分たちの思いが間違っていたかと思えました」「虐待が疑われるこどもは、ケースごとに対応が違う。悩んで悩んで対応したら間違いないことになることはないというお話をされていたのが心に残りました」などの感想をいただきました。活動団体、各区社協職員、行政職員、企業等が集まり、意見を交わす交流の機会となりました。

地域こども支援団体連絡会は偶数月の第3金曜日10時～12時に開催します。ご参加お待ちしております。

企業・社会福祉施設等の協力

NPO法人日本もったいない食品センターから、備蓄食（サバイバルフーズ）の提供があり、地域こども支援ネットワーク事業に登録する27団体に提供しました。

地域こども支援ネットワーク事業では、これからも企業等の協力をお願いしながら、食材等のこどもの居場所に役立つ物資の提供や、さまざまな世代とふれあう交流イベント、企業の強みを活かした職業体験活動などを実施し、こどもの文化的な活動や将来の夢や目標を持つことを応援していきます。



地域こども支援ネットワーク事業は、市内の社会福祉施設を中心に、多くの方の協力により事業を実施しています。協力団体一覧はホームページをご覧ください。

問い合わせ 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア・市民活動センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10

TEL: 06-6765-4041 / FAX: 06-6765-5818 / Mail: kodomo@osaka-eishakyo.jp

＜利用時間＞ 月～金 9:00～19:00 / 土 9:00～17:30 （日曜・祝日及び年末年始休館）



このかわら版は、共同募金により作成しています

社会全体でこどもを支える仕組みづくり ～地域こども支援ネットワーク事業～

かわら版

第7号
2020年3月

新型コロナウイルスに伴う
こどもの居場所活動状況に関するアンケートを実施しました

新型コロナウイルスに伴う こどもの居場所活動状況に関するアンケート報告

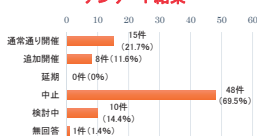
アンケートから見えるこども食堂

新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、こどもの居場所活動についても中止・延期等の対応に懸念の声があり、地域こども支援ネットワーク事業登録団体を対象に、今後（3月）のこどもの居場所活動の実施状況や対応について、登録団体間における情報共有を目的にアンケートを実施しました。

アンケートから見えるこども食堂

回答のあった団体のうち、69.5%が「中止」という結果でしたが、苦渋の決断であったことが明らかとなりました。ほとんどの団体が「開館を検討するなか、会場が使用できなくなったり、感染症拡大を予防するため、やむを得ず「中止」と判断しています。ただ、中止の場合であってもこどもたちや親と関わりを継続していくために各家庭へ連絡をしたり、気になる家庭には訪問したりするなど個別対応している団体もありました。マスクの着用や検温、手洗いや手指消毒等の感染対策をしながら開館し、お弁当の配達や昼食の開催など、こどもたちの状況に合わせて柔軟に対応していることがアンケートからわかりました。

アンケート結果



■調査対象：地域こども支援ネットワーク事業に登録する124団体（3月時点）
■調査期間：令和2年3月2日（月）～令和2年3月6日（金）
■調査方法：メール、FAXによりアンケート用紙を配布
■回収状況：69団体（回答率 55.6%）



ボランティアさんがたくさんのお弁当を配りました

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が深刻化するなか、外部機関から支援の申し出がありました。

○中央基金会の緊急助成
○公益社団法人全国環境対策機構によるお弁当の提供
○NPO法人日本もったいない食品センターによる中華丼のレトルト食品の物資提供 など

開催の代わりにお弁当を配るこども食堂では参加者の母親から「毎日3食の食事に追われている中、とても助かります」受取りに来たこどもは「明日卒業式やねん」と久しぶり家から出られ、嬉しそうに近況報告をしてくれました。

第7号

第20回地域こども支援団体連絡会を開催



令和2年2月21日（金）、たかつガーデン地下1階オリーブにて第20回地域こども支援団体連絡会を開催しました。講師に大阪市若者自立支援事業「コネクションズおさか」所長 中町康弘さんを迎え、「若者支援現場から見る、こどもの居場所づくりの重要性」をテーマにお話をしてもらいました。

中町さんは「若者の課題は、過去の失敗体験、貧困、社会経験が少ない、虐待、障がいなどの背景があり、地域でいろいろな協力者がチームで理解し、支援していくことが必要。こどもも同様に、さまざまな大人と関わることで、自立につながると思っています。こどもが頼ることのできる人がいる地域で暮らすのようになることが大切です」と話しました。

地域こども支援団体連絡会は偶数月の第3金曜日10時～12時に定例開催しますので、こどもの居場所に関心のある方のご参加お待ちしております。

カードゲーム（ライフコネクション）を通して、密いこに近づくための支援があるのグループワークをしました

地域こども支援ネットワーク事業啓発グッズ



ステッカー（右下）とノート（裏表と開閉ページ）

地域こども支援ネットワーク事業の啓発グッズとして、ステッカーとノートを作成。こども支援に関心のある人にお届けしています。

ステッカーはこどもの居場所や福祉施設、企業等に貼っていただいています。

ノートはこどもの居場所の参加者名簿や、参加者との連絡帳としても使っていただいています。社会全体でこどもを支えるしくみを作るために、啓発のご協力をお願いします。啓発グッズを希望される方は大阪市ボランティア・市民活動センターまでお問い合わせください。

地域こども支援ネットワーク事業は、市内の社会福祉施設を中心に、多くの方の協力により事業を実施しています。協力団体一覧はホームページをご覧ください。

問い合わせ 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア・市民活動センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10

TEL: 06-6765-4041 / FAX: 06-6765-5818 / Mail: kodomo@osaka-eishakyo.jp

＜利用時間＞ 月～金 9:00～19:00 / 土 9:00～17:30 （日曜・祝日及び年末年始休館）



このかわら版は、共同募金により作成しています



こどもに関する課題を「他人事」ではなく、一人ひとりが「我が事」と捉え、地域住民と社協、地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、企業・団体などが一体となって、こどもの食や学習の支援をはじめ、こどもたちが身近に行くことができる居場所づくりを推進しています。

令和元年度 地域こども支援ネットワーク事業報告書

発行日：令和2年8月

編集・発行：社会福祉法人大阪市社会福祉協議会

大阪市ボランティア・市民活動センター

(地域こども支援ネットワーク事業 事務局)

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センター 1階

Tel：06-6765-4041 / Fax：06-6765-5618

E-mail：ocvac@osaka-sishakyo.jp

URL：https://ocvac.osaka-sishakyo.jp/

地域こども支援ネットワーク事業

E-mail：kodomo@osaka-sishakyo.jp

URL：https://www.osaka-sishakyo.jp/project/child-network/